

令和7年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和8年3月19日（木） 15：30～16：37

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：9名

北村 紗希子（琉球大学病院 第二内科）、喜納 綾乃（琉球大学病院 看護部）、呉屋 光広（県立森川特別支援学校）、古波津 万里子（沖縄県保健医療介護部 健康長寿課）、徳元 亮太（沖縄がん教育サポートセンター）、浜田 聡（琉球大学病院 小児科）、比嘉 猛（県立南部医療センター・こども医療センター 小児科）、増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター）、屋宜 孟（県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科）

欠 席：9名

伊良波 史朗（県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科）、大畑 尚子（県立中部病院 産科）、親富祖 しのぶ（県立南部医療センター・こども医療センター 看護部）、金城 敦子（がんの子どもを守る会 沖縄支部）、當銘 保則（琉球大学病院 病院整形外科）、遠越 学（沖縄県教育庁 保健体育課）、林絹子（県立中部病院 腫瘍・血液内科）、宮平 有希子（がんの子どもを守る会 沖縄支部）、銘苅 桂子（琉球大学病院 周産母子センター）

陪 席 者：2名

平敷 千晶（琉球大学病院 産婦人科）

石川 千穂（琉大病院 がんセンター）

【報告事項】

1. 令和7年度 第3回小児・AYA部会 議事要旨(12月22日)

資料1に基づき、浜田委員から報告があった。

2. 小児・AYA 部会 委員一覧

資料3に基づき、浜田委員から報告があった。

3. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 委員一覧

資料4に基づき、陪席の平敷先生から報告があった。

4. 病棟における学齢期入院患者へのWi-Fi 無料開放について

資料5に基づき、増田委員より報告があった。以下、委員からの報告。

（喜納委員）がんの患者に関しては、2月から、森川院内学級から申請書を作成して開始できているが、がん患者以外の患者に対する線引きが難しく、総務課からの連絡待ちで病院全体への周知はまだできていない。

（呉屋委員）業務用のタブレットは院内Wi-Fiを使用できるように設定済みで、クリーンルーム

も Wi-Fi はつながっている。

5. がん教育講演会「仕事と治療の両立支援について」の報告

資料 6 に基づき、徳元委員より報告があった。参加者は満席の 150 名で、その多くが働き盛り世代であり、両立支援について知りたいというニーズが確認されたようだった。がんと就労の両立に関する社会課題に対する理解促進に寄与できたと思われるとのことだった。

6. 今年度のがん教育の取り組みについて

資料 7 に基づき、徳元委員より今年度のがん教育外部講師の育成と派遣に関する報告があった。報告書には記載されていないが、「体験談で理解が深まる」、「自分事として捉え、生き方について考える機会となった」等の感想があったとのことだった。また、今年度は、愛知県から、沖縄県のがん教育について視察と意見交換会が行われた。沖縄県での取組は、外部講師の育成、講師派遣、フォローアップまで一体的に行われており、学校の先生との事前打ち合わせが行われてもいることから、他県よりも先進的な取組となっていると評価いただいたとのこと。今後も教育的効果を高めるためには、外部講師の育成および派遣体制の維持、発展のために、安定した財源確保が喫緊の課題であるとのことだった。行政や連携協議会との連携、事業の制度化、また民間企業との連携も視野に入れながら、持続可能な教育モデルの構築を進めていきたいとのことだった。

7. 藤間 勝子先生(国立がん研究センター中央病院)のアピアランスケア研修会について

資料 7 に基づき、増田委員より報告があった。3 年前に琉大病院がアピアランスケアのモデル事業の施設として選ばれたことが始まりであるが、事業が終了してからも、きっかけを絶やさないう強化事業費で今回のようなアピアランスケア研修会を外部に向けて行っている。

8. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

9. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

資料 8-1 と資料 8-2 に基づき、古波津委員より報告があった。前回報告から新たに参加した市町村はなかったとのことだった。令和 8 年 2 月末時点で、「アピアランス支援事業」は 24 市町村、「若年がん患者在宅療養生活支援事業」は 7 市町村が参加している。現在、事業担当者が、次年度の参加について市町村に調査をかけているとのことだった。

10. AYA 世代のがん患者向けパンフレットの周知・活用について

資料 9 に基づき、古波津委員より報告とパンフレットの活用依頼があった。

11. その他

増田委員より、現行の指定要件は残り 2 年となるが、その改訂のため、5 月からワーキンググループが結成されて、作業が始まる。要件改訂に関するご意見等があれば、増田委員までご連絡いただければ議題にあげたいとの案内があった。ヒアリングも行うので、その際はご協力

をお願いしたいとのことだった。

《協議事項》

1. 各市町村に対する「若年がん患者等在宅療養支援事業」への参加の働きかけについて

資料 8 に基づき、増田委員より、本事業への参加市町村を増やすための良い案がないか検討の依頼があった。

(古波津委員) 事業担当者から市町村に周知を行っているところである。アピアランス支援事業は実績があるが、在宅療養支援事業については、参加している 7 市町村から、ようやく 1 件の申請がでてきたようだ。

(浜田委員) 那覇市等大きな市町村に直接声掛けはしているか。

(古波津委員) 担当者からは、全市町村に声掛けしていると聞いている。

(浜田委員) 「AYA 世代のがん及び小児がんの罹患数と死亡数」の実際の数字を提示しながら、大きな市町村から声掛けしたら、少しずつ増えていかないか。データを後ほど送付するので、検討していただきたい。

2. 第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)の中間評価について

増田委員より、連携協議会版のがん計画に従って、次年度、中間評価を行うことが決議されたことが報告された。資料 10-2 に基づき、増田委員より説明があった。基礎的な判定は、ベンチマーク部会で機械的に行う予定で、判定欄は 5 つある(対全国比、対前回比、対全国傾向値、対基準値、対目標値。ただし、小児・AYA の所掌範囲では、対基準値、対目標値は使用されない可能性あり)。資料 10-2 内、判定欄右隣りのコメント欄に委員の皆さんのコメントを入力してほしいと依頼があった。まだ記載できていなが、表紙には、どのように評価してほしいかを記載する予定。具体的には 4 月の下旬ごろに、事務局から協力依頼メールを送付する。また、その監修の状況によっては、4 月下旬かゴールデンウィーク明けに、臨時の部会開催も検討するとのことだった。

3. 多職種からなる AYA 世代支援チームの構築について

資料 11 に基づき、増田委員より、「就学、就労、妊孕性(注 11)の温存、アピアランスケア(注 12)等に関する状況や本人の希望についても確認し、自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備すること。また、それらの相談に応じる多職種からなる AYA 世代支援チームを設置することが望ましい(※資料抜粋)」との説明があった。できれば、次年度上半期までに、琉大で支援チームを構築し、それを参考に他施設でもチーム結成できるようにできればとのことだった。浜田委員より、支援チームの立ち上げ方については、国立がんセンター中央病院のマニュアルで「AYA サポートチーム活動の手引き」というものがあると、情報提供があった。

4. 次回開催について

次回は、6 月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。なお、第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)の中間評価の進捗状況により、4 月下旬かゴールデンウィーク明けに、

臨時開催する可能性がある。

5. その他

事務局より、令和8年度の委嘱状を用意しているので、異動等で退任及び委員交代予定の方はご一報をお願いしたいとアナウンスがあった。

以上